ガバナーメッセージ

“識字率向上は世界平和への道”

国際ロータリー第2710地区
ガバナー　諏　訪　昭　登

識字率向上月間によせて

会長、幹事そして会員の皆様、本年度もいよいよ仕上げの時期に進行し、地区としても各目標について一憂二憂の状況にあります。各クラブでは奉仕プロジェクトの有意義な完遂を目指し、ロータリー財団や米山奨学金への自発的募金の取りまとめ、そしてロータリー永遠のテーマとしてお願いしている正しい会員増強へのさらなるご尽力を衷心よりお願い申し上げます。さて今月は識字率向上月間でありますが、先進国たる日本では殆んど関心を持ちにくい事に思われているのではないでしょうか。

しかしながら世界の実態を見るとロータリアンとして決して無関心でいられません。世界中で15歳以上の人で８億人近くが読み書き出来ず、そのうち64%が女性と少女です。学校へ行けない子ども(6歳〜11歳）が7,700万人存在し、非識字者の30.99%がインドに、20.10%が中国に、アフリカが15.34%と続きます。読み書き能力を欠くことは飢餓、疾病、極貧やそれに原因する触雷などの突然被害を受けるなどあらゆる悲惨につながるものです。本年度Ｄ.Ｋ.リーＲＩ会長は子どもの死亡率低下を特に強調し、母親が初等教育を受けていれば５歳未満の子どもの死亡率が1/2になると言うデーターを挙げています。

ＲＩ会長強調事項の一つに識字率向上をとりあげて、そのプログラムを通じて子どもたちの「夢をかたちに」と訴えております。ここでＲＩの識字率向上について沿革をふりかえって見ましょう。

・1986年ＲＩ理事会は機能的識字率向上（日常生活に不自由なく参加出来る読み書き能力の向上）を10年間の強調プログラムとした。
・1990年国連はこの年を「国際識字年」とした。
・1992年ＲＩは識字率向上の強調を2000年まで延長した。
・1997年グレン・キンロスＲＩ会長は計算能力を加えたライトハウス識字率向上プロジェクトを導入し、その推進を呼びかけた。
・その際のリチャード・ウォーカー推進委員長は、1985年タイ国でＣＬＥ（語学力集中研修講座）で成果を挙げ、文部省が全国的プログラムとして採用したという経歴を持つ。ロータリー財団はこれに対して3-Ｈ補助金を５年間供与し、RIはCLＥ活用によって非識字を撲滅しようと表明した。
・2001年国連は2003〜2012年を「国際識字10年」と宣言し、ＲＩはこれに賛同し参加を決定。
・2006〜07年識字率向上月間を7月から3月に変更し、「国際識字デー」(9月8日）とともに強調している。
・ＲＩ会長強調事項が近年「水、保健と飢餓、識字率向上」と同じように続く中で、識字率向上は1989年ヒュー・アーチャーRI会長から始まり最も早く登場している。
・ＲＩは主として国際読書協会と協力関係で運動を推進していて、ユニセフ、ユネスコも協力関係にある。
・ユネスコは1990年の「国際識字率」以降これを推進し、日本では日本ユネスコ協会連盟が1989年より「世界寺小屋運動」として募金、ボランティア活動などを行っており、当地区でも複数のクラブが賛助していることが確認されている。
・国際協議会（ガバナーエレクト最終研修）でも

配偶者プログラムの中で、子どもたちに本を贈ったり、文字学習のためのキットを作るなどの奉仕活動をしている。

・2008年6月ロサンゼルス国際大会において“Rotary's Wide World Books”と呼ばれる活動に共鳴して世界のロータリアンから集まった本が24万2624冊になり、7日間で最も多くの本を寄贈した記録保持者としてＲＩがギネス世界記録に認定された。この本はカリフォルニア、ネバダ両州の幼稚園、小学校に読み書き教材として贈られた。

このようにＲＩが力を入れている識字率向上について、国際的支援のみならず、地域社会においても何か関係あるニーズをとらえて、奉仕活動の実践をお願いしています。識字率向上はほかの全ての問題解決につながるものとして、ポリオ撲滅のあとはＲＩの最優先事項となるのではと言われていることを付け加えておきます。

ところで識字という点で目に関連した国際的活動をしている奉仕団体にライオンズ・クラブがあります。1925年、ヘレン・ケラーの呼びかけに応じて視覚障害者への積極的奉仕に取り組み、1990年から「視力ファースト・プログラム」を発足させ、特に2005年以降に強化して彼らの方法で奉仕をしています。本年の公式訪問の際に、ロータリーとの違いについてよく質問があったので、奉仕の方法論において異ることを説明しました。またライオンズの創立についてはロータリーでも概略二つの説があることもここで触れてみます。

その①　創立者メルビン･ジョーンズはダラスＲＣ（或いは他のＲＣ）の会員であったが、意見の相違で脱会して仲間を統合してライオンズを創立した。神守源一郎ＰＧ「職業奉仕のお話」(1981) 高木勝衛ＰＧ「ロータリーの窓」(1987) 佐藤千寿ＰＧ「ロータリーにおける大乗之道・小乗之道」などにあって旧来多くの人に語られ最新版のロータリー情報マニュアルなどにも載っています。

その②　ロータリーは一業一会員制厳守の時代で、希望しても入会出来ないことで亜流クラブが数多く出来た。そのクラブ群を統合して創立された。小堀憲助氏（1970年代から）、深川純一ＰＧなどが語っておられます。

両説とも確定的証明が不可能ですが、どちらかと言うと②の方が妥当かなと思えたりします。ライオンズクラブ国際協会の公式ページに載っている創立解説を次にご紹介して参考に供します。

（記）シカゴの実業家メルビン・ジョーンズ(保険代理店）は“シカゴ・ビジネス・サークル”というクラブに属していたがアメリカの類似クラブに呼びかけて1917年6月7日、シカゴのラサールホテルに27クラブの代表が集まった。参加したクラブの一つ“Association of Lions Club”の名前を継承して同年10月、ダラス市で第１回大会を開催した。設立３年後に国外クラブ創立によってライオンズクラブ国際協会となった。

このような資料によってしか、この問題は論評出来ないことだと思います。

“Ｉ serve”のロータリー、“We serve”のライオンズということで、おおらかに受けとめて、奉仕の方法が異っても世のため人のために尽そうとする仲間の一つとして考えて見ましょう。ロータリーは、特に職業奉仕理念を第一義として大きな誇りとともに精進することを目指しております。終りに重ねて申します。識字率向上（識字、計算能力の向上）は経済発展、健康的生活などの実現に不可欠であり、まさに“識字率向上は世界平和への道”であります。

ロータリーは人道的であり続けるでしょう。しかし、それだけではありません。人道的行為が必要とされるような原因を取り除くでしょう。

（Ｐ．ハリス）